

第1回能美市地域公共交通協議会 会議録

日時 令和4年4月20日(水) 13時30分～15時

会場 能美市辰口福祉会館 交流ホール

1. 開会

2. あいさつ

能美市副市長 あいさつ

3. 出席者紹介

出席委員16名 委員代理2名 事務局4名 合計22名

4. 報告

(1) 能美市地域公共交通協議会設置に至る経緯等について (資料1)

[事務局より資料に沿って説明]

【質問・意見なし】

(2) 地域公共交通計画について (資料2)

[事務局より資料に沿って説明]

【質問・意見なし】

5. 議事

(1) 議案第1号について

[事務局より資料に沿って説明]

【質問・意見なし】

・ 議案第1号能美市地域公共交通協議会規約(案)について承認を得る

・ 規約に基づき、能美市副市長を会長及び議長とする

(2) 議案第2号について

[事務局より資料に沿って説明]

【質問・意見なし】

・ 規約に基づき、会長が副会長及び監事を委員の中から任命する

(3) 議案第3号から議案第5号について

[事務局より資料に沿って一括して説明]

【質問・意見なし】

・ 能美市地域公共交通協議会事務局規程及び財務規程並びに報酬及び費用弁償規程について制定する

(4) 議案第6号について

[事務局より資料に沿って説明]

【質問・意見なし】

- ・令和4年度能美市地域公共交通協議会事業計画(案)及び予算(案)について承認を得る

6. 協議

(1) 令和4年度地域公共交通確保維持改善事業補助金

地域公共交通調査事業(計画策定事業)交付申請について(資料3)

(2) 令和4年度調査業務の委託について(資料4)

[事務局より資料に沿って一括して説明]

[委員]

調査業務委託先について、公募による業者選定が6月中下旬になるとのことだが、第2回能美市地域公共交通協議会の日程との前後関係はどうか。

[事務局]

第2回の協議会開催は業者選定後となる。

- ・地域公共交通計画策定に際し、令和4年度地域公共交通確保維持改善事業補助金の交付申請を行うことについて承認を得る
- ・また、地域公共交通計画策定に係る調査業務について、公募型プロポーザル方式により業者を選定することについて承認を得る

7. その他

[事務局より説明]

令和2年4月に全線見直しをおこなった能美市コミュニティバス「のみバス」のルートについて、循環ルート等一部のルートにおいて利用者数が大きく減少しているため、当該ルートの見直しを検討し、令和5年度から検討した内容を反映したルート及びダイヤで運行したいと考えている。これから策定する能美市地域公共交通計画との整合性を保ちながら進めていくので、ご理解いただきたい。

[委員]

「のみバス」の現在の利用状況データについて、今日は何も示されていないが、次回、次々回など、どのタイミングで説明してもらえるか。

[事務局]

次回、第2回の時に、「のみバス」の利用状況や、その他の公共交通機関の利用状況についてご説明させていただく。また、「のみバス」に乗降客カウントシステムが搭載されており、取得したバス停毎の乗降客数データについても分析が完了次第ご報告させていただく。

<各委員あいさつより一部抜粋>

- ・これまでの公共交通会議ではきめ細かい意見が見られた。自分の町のバスという認識が強いように思う。
- ・先ほどの「のみバス」のデータについて、過去5年分ほどのデータを提示してほしい。
- ・コロナ禍により、免許返納を検討する世代の方も車を手離しづらい状況にある。そういった方も含め、ここ何十年間バスを利用したことがないという方が非常に多い。
- ・「のみバス」について、寺井高校の通学便が充実しており、よいと思う。
- ・「のみバス」について、車を運転できる世代は不便を感じないが、小さな子をもつ親世代から利用しづらいという話をよく伺う。寺井の街中や根上の駅周辺ではそういう声が少ないのかもしれないが、数字を拾って精査してみるべきだと思う。
- ・バスの乗り降りの際に、身体障がい者は不便を感じている。公共交通機関が使えないと外出機会が少ないことによる認知症や病気につながる。
- ・乗合タクシーなど、タクシーを中心とした取り組みについても検討していきたい。
- ・コロナ禍により路線バスの乗合事業はコロナ前に比べて3割減、貸し切り事業（観光バス）にいたっては6割減という状況であり、事業を存続することがいろんな話の大前提となる。この地域公共交通協議会の場合ではそういった状況等についても協議していきたい。
- ・コミュニティバスは市内の移動に特化しているが、市外への移動については路線バスが担っており、非常に重要である。これも踏まえた、地域のためになるような計画を策定していきたい。
- ・この協議会においては公共交通の円滑性や利便性について意見が交わされることが多くなると思うが、これに加えて交通安全や事故防止といったことも協議していきたい。
- ・この協議会には地元の代表の方もいらっしゃるので、公共交通の運行に伴う道路状況の安全性や施設、路面状況についてもご意見をいただきたい。
- ・能美市は他市町と比較しても、コミュニティバスに思い入れの強い市のひとつであると思う。
- ・コミュニティバスの運行には多額の税金がかかっている。それでも維持することは可能だが、持続可能とは言えない。コミュニティバスの維持には市民一人ひとりが維持していく意気込みを持たないと、行政がどれだけ旗を振っても限界がある。
- ・運賃収入を見込めないことからコミュニティバスの乗車料を無料として、経費削減のため白ナンバーで運行し始めた市町もあるが、やはり安全性について緑ナンバーとは違うということがあるので、そうならないためにも公共交通は大事なものであるという考えを、地域で醸成していきたい。